

# 高山聖子さんの心臓移植費用の支援募金のお願い

高山聖子(たかやましゅうこ)さんは、1999年3月北海道管区行政監察局旭川行政監察分室(当時)に採用され、会計担当の職員として職務に精励されていましたが、2000年1月、突然、心臓病(後に拡張型心筋症と診断)を発病し、同年11月から休職を余儀なくされました。

2001年5月には地元の国立医大病院から、心臓病の権威である東京女子医大に転院、完治のための手術はできませんでしたが、ペースメーカーの装着等の治療を行い、9月には退院し、職場を訪問するなど、快方に向かっていました。

しかし、在宅治療の間に不整脈の発作が断続的に起きたため、再度、地元の国立医大病院に入院、主治医のアドバイスにより、2002年3月、国立循環器病センター(大阪)に転院しました。転院後は、血栓の開胸手術、不整脈の開胸手術と治療を重ねましたが、11月に入ってから心不全が悪化し、医師からこれ以上の治療は困難で、心臓移植が必要と宣告されました。

このため、ご両親は、心臓移植を決意されましたが、国内では何年たってもドナーが現れない可能性が高いこと、一方で心臓がもう何年も持たない状況にあることから、海外で移植手術を受けることを希望され、この程米国のスタンフォード大学での受け入れが決まりました。しかし、手術までには渡航のための費用を含め、一般家庭では到底用意することが不可能な1億円に近い費用が見込まれます。

現在、ご本人は、心臓の負担を軽くするため、補助人工心臓を着け一刻も早い心臓移植手術の実現を待っています。高山さんは、1979年生まれの23歳、人生の一番華やかな時期に病苦と闘わざるをえないご本人と、ご両親の心中は、察するに余りあります。

国公労連は、全行管北海道支部の組合員である高山さんと、同じ国公職場に働く仲間として、一刻も早い心臓移植の実現と、職場復帰をめざし、募金に協力することとしました。国公労連組合員のみなさんにとどまらず、管理職、OB諸先輩、関係者のみなさんに、広くご協力を訴えます。みなさんの心温かいご支援を切にお願い申し上げます。

2003年6月

お 名 前	ご 住 所 また は 職 場 名	募 金 額

**取扱い団体：日本国家公務員労働組合連合会（国公労連）**

[ 〒105-0003 東京都港区西新橋1-17-14 リバティ14ビル3階 TEL03-3502-6363 FAX03-3502-6362 ]

## 【募金専用口座】

郵便振替口座 00120-4-407597 加入者名「国公労連」(通信欄に「高山さん募金」と記入してください)

中央労働金庫 新橋支店 店番289 (普)1037844 口座名「国公労連」

[下欄に職場名と金額をご記入の上、この用紙を単組本部か国公労連にお送りください：送金は単組本部または専用口座まで]

集約職場名 \_\_\_\_\_ 集約金額 \_\_\_\_\_